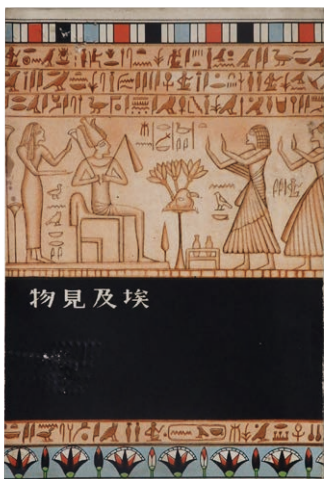


# 海風日記

さまざまな記憶を包含した貴重な収蔵品が日本郵船歴史博物館にあります。海風が日記をめくるように積み重ねた歴史を紹介します

## “旅行ガイドブック”



### 【埃及見物】

1925年5月20日発行 19.1×12.9cm

欧州航路の途中、埃及(エジプト)への小旅行は一つのセールスポイントだった。冊子の後半はエジプト史が掲載され、ミイラの語源などについても書かれている。



### 【死都ポンペイを訪ふために】

1926年10月発行 19.1×12.7cm

当時「ナポリを見てから死ね」と言われるほど、ナポリは異国の憧れの地だった。本書は、ナポリ市内と郊外、近郊のポンペイの見所や歴史的背景も解説。



### 【爪哇の旅】

1927年12月15日発行 18.7×13.0cm

爪哇(ジャワ)の古都、史跡、景勝地、風俗、芸術などの見所の紹介と、シンガポールからジャワを周遊する約10日間のモデルコースを掲載。

1 900年代初頭までは乗船客の大半が外国人であったため、NYKは英文のパンフレットを多数発行していました。1920～30年代に入ると、国内でもツーリズムが盛んになり、一定数の日本人が海外に出掛けるようになるにつれ、小冊子型の日本語版パンフレットを発行するようになりました。停泊日数が長く上陸が可能な場合、乗船客は寄港地での観光を楽しむことができました。冊子には寄港地案内とともに見所や注意事項などが記され、さながら街歩き用のガイドブックのようでした。中でも、欧州航路の乗船客にとって、エジプト、イタリアのポンペイ、ジャワ(現在のインドネシア)が人気の寄港地で、NYKは英国のトーマス・クック社や南部兄弟商会と代理店契約を結び、乗船客に小旅行の斡旋あつせんもしました。

### 問い合わせ

## 日本郵船歴史博物館

- 所在地：神奈川県横浜市中区海岸通3-9
- 電話：045-211-1923
- 開館時間：午前10時～午後5時  
(最終入館：午後4時30分)
- 休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)

- 入館料：一般400円、シニア(65歳以上)・中高生250円、小学生以下無料  
(NYKグループ社員と同伴者1人まで、社員証の掲示で入館無料)
- ウェブサイト：<http://www.nyk.com/rekish>